

2021年度学力向上プラン

第（ １ ） 学 年 【国語科】

	学ぶ意欲や学習の習慣について	話す・聞く	書く	読む	言語事項
児童の実態（学力調査や普段の学習から）	・ひらがな練習や音読などの家庭学習については概ね取り組むことができている。 ・読書が好きな児童は多いが、選ぶ本に偏りがある児童もいる。	・集中して聞くことが苦手な児童がいる。 ・話す声が小さかったり、内容が整理できず、上手く伝えられなかったりする児童がいる。 ・発表には個人差が大きく、自分の考えや理由をしっかりと発言できる児童は少ない。	・書く力には個人差があり、テーマを与えても、書き始めるまでに時間を要したり、個別の支援が必要な児童がいる。 ・事柄の順序やまとまりのある文を書く力も十分ではない。	・家庭学習で毎日音読に取り組むことで、大きな声ではっきりと音読できるようになってきた児童が増えた。 ・文字に興味をもち、進んで読み進めようとする児童は多いが、文章に即して内容を読み取る力は十分ではない。	・毎日のひらがな学習には取り組んでいるが、意味を理解しているかについては個人差がある。 ・文章の中で、助詞や促音、片仮名、漢字、かぎ、句読点などを正しく使って文章を書くことができない児童がいる。
育てたい具体的な姿	・理由をつけて、自分の考えを積極的に表現しようとする。 ・興味が偏らず、様々なジャンルの本に触れることができる。	・自分の考えを順序良く、内容を整理して分かりやすく相手に伝えることができる。 ・集中して話を聞き、内容を正しく理解することができる。	・書く事柄を明確に定め、順序に従って簡単な構成で文章を書くことができる。 ・書いた内容を読み返し、必要であれば書き直すことができる。	・説明文では、時間や順序に沿って内容の大体を読み取ることができる。 ・物語文については、登場人物の心情を文章中の言葉に着目して読み取ることができる。	・漢字学習や作文等に丁寧に取り組むことができる。 ・句読点やかぎの使い方を理解し、文章の中で正しく使用することができる。
実現に向けた方策	・発言の際には自分の考えとともにその理由も言えるよう、常に話形を意識させる。 ・図書館司書を積極的に活用し、学年にあった多様なジャンルの本を紹介してもらい、読書内容の充実を図る。	・正しい話し方・聞き方を常に意識させ、継続的に指導し身に付けさせる。 ・ペア対話やグループ対話を取り入れて、進んで対話する力を育てる。	・主述の関係や敬体についてなど、文章を確認する項目をあらかじめ提示しておき、自分で書いた文章を推敲できるようにする。 ・日記を継続して宿題に出し、書くことに慣れさせ、まとまりのある文章を書けるようにする。	・文章に線を引いたり、大事な文章を視写したりする学習活動を多く取り入れる。 ・「もっと学習」の時間に、問題の答え方や内容を理解するための課題プリントに取り組む。 ・音読を授業や家庭学習で繰り返し行う。	・漢字学習については、城山漢字テストや日ごろの宿題を通して、繰り返し指導をしていくことで習熟を図る。 ・長音や促音、かぎなどの言語事項については、文章を書く前後に、確認させていく。
学年末の振り返り					

※ 太字は重点指導項目

2021年度学力向上プラン

第（ 2 ） 学年 【国語科】

	学ぶ意欲や学習の習慣について	話す・聞く	書く	読む	言語事項
児童の実態（学力調査や普段の学習から）	・読書が好きな子は多いが、選ぶ本に偏りがある。 ・絵を見て満足している児童が見受けられる。 ・漢字練習や音読などの家庭学習については概ね取り組むことができている。しかし取り組みの丁寧さ、正確さに個人差がある。 ・発表は個人差が大きく、自分の考えや理由を求められると発言できる児童は少ない。	・話す声が小さかったり、内容が整理できずに十分に伝えられなかったりする児童がいる。 ・注意散漫になり、集中して聞くことが苦手な子供がいる。	・身近なことから事柄を決めて書く力には個人差がある。 ・事柄の順序やまとまりのある文を書く力は十分ではない。	・家庭学習で毎日音読に取り組んでいるので、大きな声ではっきりと音読できる児童が多い。 ・文章に興味をもち、進んで読み進めようとする児童は多いが、文章に即して内容を読み取る力は十分でない。	・毎日の漢字学習には取り組んでいるが、漢字の習得には個人差がある。 ・文章の中で、助詞や促音、片仮名、漢字、かぎ、句読点などを正しく使って文章を書くことができない児童がいる。
育てたい具体的な姿	・理由をつけて、自分の考えを積極的に表現しようとする。 ・興味が偏らず、様々なジャンルの本に触れることができる。	・自分の考えを順序良く、内容を整理して分かりやすく相手に伝えることができる。 ・集中して話を聞き、内容を正しく理解することができる。	・書く事柄を明確に定め、順序に従って簡単な構成で文章を書くことができる。 ・書いた内容をよく読み返し、必要であれば書き直すことができる。	・説明文では、時間や順序に沿って内容の大体を読み取ることができる。 ・物語文については、登場人物の心情を文章中の言葉に着目して読み取ることができる。	・漢字学習や作文等に丁寧に取り組むことができる。 ・句読点やかぎの使い方を理解し、文章の中で正しく使用することができる。
実現に向けた方策	・発言の際には自分の考えとともにその理由も言えるよう、常に話形を意識させる。 ・図書館司書を積極的に活用し、学年にあった多様なジャンルの本を紹介してもらい、読書内容の充実を図る。	・ペア対話やグループ対話を取り入れて、進んで対話する力を育てる。 ・正しい話し方・聞き方を常に意識させ、継続的に指導し身に付けさせる。	・主述の関係や敬体についてなど、文章を確認する項目をあらかじめ提示しておき、自分で書いた文章を推敲できるようにする。 ・日記を継続して宿題に出し、書くことに慣れさせ、まとまりのある文章を書けるようにする。	・文章に線を引いたり、大事な文章を視写したりする学習活動を多く取り入れる。 ・「もっと学習」の時間に、問題の答え方や内容を理解するための課題プリントに取り組む。 （月…国 水…算） ・音読を授業や家庭学習で繰り返し行う。	・漢字学習については、城山漢字テストや日ごろの宿題を通して、繰り返し指導をしていく。 ・長音や促音、かぎなどの言語事項については、文章を書いた際に推敲させる。
学年末の振り返り					

※ 太字は重点指導項目

2021年度学力向上プラン

第（ 3 ） 学年 【国語科】

	学ぶ意欲や学習の習慣について	話す・聞く	書く	読む	言語事項
児童の実態（学力調査や普段の学習から）	・自分の考えや根拠を進んで発表しようとする児童は限られている。 ・家庭学習の習慣はほとんどが身についているが、文字を書く際に丁寧に欠ける児童が数名いる。 ・読書を好きな児童が多いが、読む本にかたよりが見られる。	・相手や目的に応じて話したり、調べたことなどについて筋道を立てて話したりすることが出来る児童は少ない。 ・大事なことを聞きのがさずに聞くことができない児童が数名いる。	・自分の考えが明確になるような文章を書ける児童は少ない。 ・文例を示さないと文章を書きだせない児童が少なくない。 ・推敲の習慣がついている児童は少ない。	・家庭学習で音読を習慣化できている児童が多いが、たどたどしい読み方しかできない児童もいる。 ・大事な言葉や文章に気をつけながら読むことはできるが、段落相互の関係に気をつけたり、叙述に即して読んだりできる児童は少ない。	・家庭学習での漢字練習が習慣化しており、漢字の読み書きの力がついている児童が多い。 ・句読点を適切に打ったり、段落の始めや会話部分の改行をすることが正しくできる児童は少ない。
育てたい具体的な姿	・自分の考えを自信をもって、進んで発表できる。 ・文字を丁寧に書く。 ・物語だけでなく、様々な分野の本を進んで読む。	・自分の考えを、筋道を立てて相手に分かりやすく話すことができる。 ・話の中心に気をつけて聞くことが出来る。	・書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて根拠や理由を挙げて書くことが出来る。 ・書いたものを見直し、文章の間違いを正したりよりよい表現に書き直したりすることができる。	・説明文では、中心となる語や文をとらえて、段落相互の関係を考えて読み取ることができる。 ・物語文では、場面の移り変わりに注意しながら叙述に即して、読み取ることができる。	・漢字を筆順も含めて正しく書いたり、文章の中で使ったりすることができる。 ・句読点を適切に打ったり、段落の始めや会話部分の改行したりすることができる。
実現に向けた方策	・対話学習の機会を多くもち、自分の考えを理由をつけて発表できるようにする。 ・通信でよびかけたり、家庭と連絡をとったりして、家庭学習に丁寧に取り組みさせる。	・発言の前に自分の考えを「書く」時間をできるだけ取り、自分の考えをまとめたり組み立てたりした後に発表させることで、発表への自信をもたせる。 ・話し手の方を見て、反応しながら聞くことを徹底させる。	・目的に即して「始め」「中」「終わり」の構成をワークシートなどにまとめさせてから、文章を書くように指導する。 ・書いたものは自分で見直すだけでなく、友達同士で読み合うように習慣付けをする。	・正しく読み取るために中心となる語や文に注目して要点をまとめたり、小見出しをつけたりして内容を整理させる。 ・文を読む際に、指示語や接続語、事実と意見との違いに注意して読ませる。	・城山漢字テストや漢字小テストに進んで取り組みさせ、漢字の読み書きの定着を図る。 ・視写プリント等を活用し適切な句読点の打ち方や、会話文の改行などができるようにする。
学年末の振り返り					

※ 太字は重点指導項目

2021年度学力向上プラン

第（ 4 ） 学年 【国語科】

	学ぶ意欲や学習の習慣について	話す・聞く	書く	読む	言語事項
児童の実態（学力調査や普段の学習から）	・ほとんどの児童が授業に向かう姿勢は意欲的だが、取り掛かりが遅かったり、私語や手混ぜが多かったりする児童が数名いる。 ・自分の考えや根拠を進んで発表しようとする児童は限られている。 ・家庭学習の習慣はほとんどが身についているが、文字を書く際に丁寧に欠ける児童が数名いる。 ・読書を好きな児童が多いが、読書量に個人差がある。	・市学力テストの正答率は全国正答率をやや上回っている。 ・相手や目的に応じて話したり、調べたことなどについて筋道を立てて話したりすることが出来る児童は少ない。 ・大事なことを聞きのがさずに聞くことができない児童が数名いる。	・市学力テストの正答率は全国平均とほぼ変わらない。 ・考えと理由を明確にして文章を書いたり、指定された長さで文章を書いたりする記述式の問題では、誤答や無回答が多かった。 ・自分の考えが明確になるような文章を書ける児童は少なく、文例を示さないと文章を書きだせない児童が多い。 ・推敲の習慣がついている児童は少ない。	・市学力テストの正答率は全国正答率とほぼ変わらず、物語より説明文の読み取りの方が良い。 ・登場人物の気持ちについて、叙述をもとに捉えたり、文章を読んで感じたことや考えたことを共有することが苦手な児童がいる。 ・音読は毎日の宿題にしているが、読み方には個人差が大きい。	・市学力テストの正答率は全国正答率を10%以上上回っているものがある。 ・家庭学習での漢字練習が習慣化しており、漢字の読み書きの力がついている児童が多いが、漢字のへんやつくりの理解については課題が残る。 ・句読点を適切に打ったり、段落の始めや会話部分の改行をすることが正しくできる児童は少ない。
育てたい具体的な姿	・授業に意欲的に取り組み、自分の考えを進んで発表する。 ・家庭学習だけでなく、自主学習でも国語の学習に進んで取り組む。 ・物語だけでなく様々な分野の本を進んで読むようになる。	・話すときは、具体例や根拠を示しながら、わかりやすく表現できる。 ・話を自分の考えと似ているところや違うところなど比べながら聞くことができる。 ・人の発表に必ずコメントできるように意識し、自分の発表に活かすことができる。	・条件を付けて(内容・字数等)、的確な内容を文にまとめることができる。 ・段落相互の関係を考えながら文を書くことができる。 ・主述・指示語・読点を正しく使いながら、文を書くことができる。	・説明的な文章において、中心文や段落相互の関係を考えて読み取ることができる。 ・物語文において、場面の移り変わりなど叙述即して登場人物の心情の変化を読み取ることができる。	・既習漢字を正しく書き、文章中で使うことができる。 ・文字の形を整えて、ていねいに書くことができる。 ・指示語の指す内容や漢字のへんやつくりの意味について理解することができる。
実現に向けた方策	・自分の考えを伝える機会を多くもたせるためにグループ対話の場面を多く設定する。 ・通信でよびかけたり、家庭と連絡をとったりして、家庭学習に丁寧に取り組ませる。 ・みんなの発言を互いに容認し合う学級の雰囲気作りを行う。	・話し合い活動や発表などにおいて、考えの根拠を示して発表するなど話し方を鍛える。 ・人の考えに必ず反応させ、自分の考えと関連づけたり深めたりしながら発表できるよう指導する。	・視点を明確にした上で、内容や文字数等の条件をつけて書く練習をする。 ・文章を書いた後、必ず読み返し、推敲する時間を設定する。 ・考えを述べ合う前に、必ず自分の考えを文章に書き考えを整理させるようにする。	・説明文においては、筆者の考えや事実、中心となる語などを明確にしながら線を引く、といった読み取りのスキルを身につけさせる。 ・物語文では、人物の会話、情景描写や場面の様子などに印や書き込みさせ、心情を捉えさせる。 ・指示語や接続語、語尾に着目させ、書かれてある内容を正しく理解させる。	・漢字の小テストや城山漢字テストを通して、漢字を確実に習得させる。 ・漢字辞典を有効活用させて、漢字の学習を行わせる。 ・漢字を構成している辺やつくりの意味について、具体例を提示しながら理解させる。 ・ローマ字の練習を定期的に行わせる。
学年末の振り返り					

※ 太字は重点指導項目

2021年度学力向上プラン

第（ ５ ） 学年 【国語科】

	学ぶ意欲や学習の習慣について	話す・聞く	書く	読む	言語事項
児童の実態（学力調査や普段の学習から）	・自分の考えを表現することに苦手意識をもっている児童が多く、積極的に発表する児童は限られている。 ・家庭学習の提出は、ほとんどの児童が提出するが、まだ、家庭学習の習慣が身についていらず、提出しない児童が数名いる。	・県学力調査の正答率は45.1％と県平均よりも8.8％低い。 ・効果を考えて、提示する資料を変えた理由を書く設問は県よりも7.3％低かった。 ・語彙が少なく、自分が伝えたいことを言葉にすることが苦手と感じている児童が多い。 ・共通点や相違点を考えながら話を聞き取ることについては、個人差が大きい。	・県学力調査の正答率は43.2％で、県平均よりも4.6％低い。 ・主語と述語の関係に注意して、文章を正しく書き直す設問では9.3％県平均より低く、問題の意図を正しく読み取って、文章にまとめることに課題がある。 ・無答が多い。	・県学力調査の正答率は61.5％で県よりも1％低い。 ・語句を読み取ったり、選択したりすることはできるが、読み取ったことを、文章で表現することが苦手である。 ・音読は毎日の宿題にしているが個人差が大きい。	・県学力調査の正答率は62.7％で県平均より3.3％低い。 ・特にローマ字を書く設問では県平均よりも7.3％低く、無答率も高い。 ・漢字を読むことはできて正確に書くことがやや苦手である。 ・語彙力に乏しく、簡単な言い方をしないと伝わらない場合がある。
育てたい具体的な姿	・粘り強く学習に取り組み、自ら学ぼうとする態度を育成する。 ・学習したことを基にして、家庭学習や習熟問題に進んで取り組む。 ・読書に親しむ中で、豊かな言語や思いを知るとともに、表現力を高める。	・自分の考えをもち、友達の考えと比べながら聞いたり話したりすることができる。	・小見出しを付けたり、段落を分けたりして分かりやすく伝えることができる。 ・読み取ったことを条件（文字数、引用など）に合わせて書くことができる。 ・自分の考えや感想を文章に書くことができる。	・物語文において、場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて叙述をもとに読み取ることができる。 ・物語文や説明文で読み取ったことを、文章で書き表すことができる。	・漢字やローマ字を正確に書くことができる。 ・言語の知識をもとに、様々な問題を解くことができる。 ・作文において、句読点を正しく付けたり主語と述語の関係を正しく書いたりすることができる。
実現に向けた方策	・児童の学習意欲を喚起するように授業内容や学習教材を工夫する。 ・家庭学習やノートの整理など真面目に学習に取り組んでいる児童を称賛し認める。 ・家庭との連携を図りながら、家庭学習の習慣化を図る。 ・読書量の少ない児童へ、国語の学習に関連して読書を推進したり、声かけしたりして読書への意欲を喚起する。	・聞く、話すときの視点を与え、めあてをもって聞いたり話したりできるようにする。 ・話型の提示や順序立てた話し方などを指導する。 ・班活動を多くし、話し合いや発言の場を増やし、表現力を培う。 ・表現した後、称賛したりアドバイスをしたりして表現力を高める。	・書く活動を多く取り入れ、書く体験を多く持たせる中で、書き方を身に付けさせ、書くことへの意欲をもたせる。 ・新聞、リーフレットなどの様々な表現方法を指導する中で、表現技能を高める。 ・条件（文字数、引用など）に合わせて書く問題に取り組ませる。	・物語文の場面の移り変わりや説明文の段落のつながりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景、筆者の考えなどについて叙述をもとに読み取らせる。 ・物語文や説明文で読み取ったことを、文章で書き表す機会を多くもち、文章で表現することに慣れさせる。	・新出漢字を指導するときに、筆順、終筆などに気を付けて正しく書くように意識させる。 ・定期的にローマ字の学習を取り入れ、ローマ字の読み書きが定着できるようにする。 ・言語に関する問題に多く取り組ませ、知識を活用できるようにする。 ・作文の推敲において、語句や句読点、主述の関係などに気を付けさせる。
学年末の振り返り					

※ 太字は重点指導項目

2021年度学力向上プラン

第（ 6 ） 学年 【国語科】

	学ぶ意欲や学習の習慣について	話す・聞く	書く	読む	言語事項
児童の実態（学力調査や普段の学習から）	・ほとんどの児童が意欲的に授業に取り組んでいる。 ・発言も活発な児童が多いが、自分の考えを即座に表現できない子もいる。 ・家庭学習の習慣は、ほとんどの児童に身につけている。 ・読書に親しみ、多くの作品を読むことができるが、読書量には個人差がある。	（・全国平均・県平均より高い。） ・目的や意図に応じて考えたことや伝えたいことなどを的確に言葉を選んだり、相違点を整理しながら話したりすることができる。 ・目的や意図に応じて、話の構成や内容を工夫し、自分の考えを話すことについては個人差がある。	（・全国平均・県平均より高い。） ・目的や意図に講じて、文章の中から必要な情報を取り出したり、引用したりしながら文章を書くことができる。 ・ただし、複数の内容を関連付けて自分の考えを書き表すことが苦手な児童が多い。	（・全国平均・県平均より高い。） ・登場人物の行動を基にして場面の移り変わりをとらえたり、文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえたりすることができる。 ・物語を読み、具体的な記述をもとに理由を明確にして、自分の考えをま	（・全国平均・県平均より高い。） ・学年別漢字配当表示されている漢字を正しく書いたり読んだりする力には個人差が大きい。
育てたい具体的な姿	・発表するときには、相手意識を持って大きな声ではっきりと分かり易く伝えることができる。 ・自分の課題を意識し、音読や漢字練習などが積極的に行える。	・常に正しい言葉づかいを意識しながら話することができる。	・複数の情報や文字数などの条件に合わせて、的確に文にまとめることができる。 ・段落相互の関係を考えながら文を書くことができる。	・物語文において、場面の推移や人物の心情の変化、叙述に即して読み深めることができる。	・これまで学習した漢字を正しく文章にあわせて書き表すことができる。
実現に向けた方策	・発問を工夫し、話し方や聞き方のルールをつくる。児童の発表を受け止め、認めることや聞き方の優れているところを称賛するなどしてやる気を伸ばしていく。 ・児童の発言を大切にし、分かり易く板書に表す。 ・家庭との連携をとり、家庭学習の習慣化を図る。	・「 話したい 」「 聞いた 」という 児童の意欲が喚起されるような対話の話題を設定し、指導をする。 ・句点ごとに交代するペア読みや全員読みなどを工夫し、音読の楽しさを味わわせる。 ・即時即場で、時と場合に 応じた言葉づかい を常に指導する。	・目的に応じた作文の書き方や言葉使いを指導するなど、作文指導の充実を図る。 ・書く活動を随所に取り入れ習慣化を図る。 ・教育センターの学力向上教材を活用するなどして、条件に合わせて 的確な内容 を文にまとめられるよう指導する。	・キーワードに着目させたり、文章構成を捉えさせたりして読み深めさせる。 ・物語文では登場人物の心情や場面の様子が分かる表現にサイドラインを引かせ、書き込みをさせることで読みを深めさせる。 ・優れた文学作品の読み聞かせを通して、解説の要点を指導していく。	・文章を書くときに、既習の漢字を正しくきちんと使い分けるよう指導する。 ・月1回の漢字テストを全校で取り組み、家庭との連携を図る。
学年末の振り返り					

※ 太字は重点指導項目